

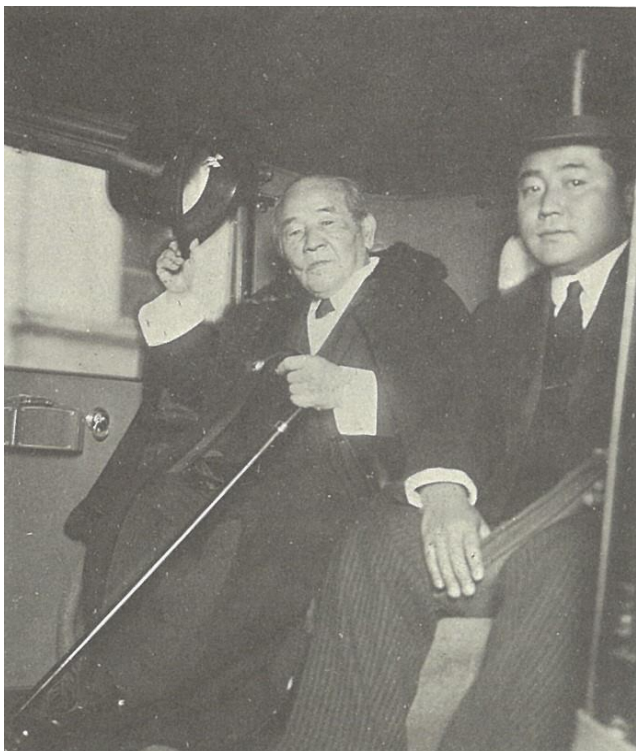
渋沢栄一が生きた時代 一田無・保谷の歴史のあゆみ

～渋沢栄一“^{ゆかり}縁の人”たちの志の跡を追う ～展示概要編～

■ 渋沢栄一“^{ゆかり}縁の人”たちと田無・保谷

■ 渋沢敬三と保谷にあった民族学博物館

〔保谷の地に“日本初の民族学博物館”を創る！〕～渋沢栄一の後継者・渋沢敬三～



昭和天皇陪食、車中写真

(左) 渋沢栄一、(右) 渋沢敬三

渋沢史料館所蔵

保谷民族学博物館

「保谷にあった民族学博物館」跡地のいま

西東京市東町 1-11

既に関連する建物などは残っていませんが、市民団体が製作し、市に寄贈した銘板が、歩道脇に設置されています。



【所在地】西東京市東町一丁目11番

【アクセス】保谷駅南口から徒歩10分



〔保谷は、日本の民族学の原点の場所〕～魚大好き少年だった敬三が夢見た博物館～



模型：武蔵野の民家

渋沢敬三・高橋文太郎の“夢”

武蔵野の民家

民族学博物館 野外展示物・第一号

日本初の野外博物館 “日本民族学会附属・民族学博物館”

開館：昭和 14 (1939) 年 5 月 82 年前

閉館：昭和 37 (1962) 年 (開館期間 23 年)

大正 14 (1925) 年の夏、29 歳の渋沢敬三は横浜正金銀行でのロンドン支店勤務を終えて帰国しました。

前年に初めて訪れたスウェーデン・ストックホルムにあるスカンセン野外博物館で受けた強烈な印象と、いつの日か「日本にもスカンセンのような博物館を、」との夢を携えて。

明治 29 (1896) 年に、建物を移築するだけでなく、当時の衣装を着た人を配置し、空間や民具も揃えた昔の生活そのものを体験できる博物館が誕生しました。それが世界最古の野外博物館「スカンセン」でした。

スカンセン博物館の記憶と夢を甦らせた**渋沢敬三**は、昭和11（1936）に日本民族博物館の設立を計画しました。←

昭和12年、アチックミュージアムの同人である**保谷の高橋文太郎**が、保谷の土地を日本民族学会に提供すると、敬三はさらに土地を購入して、**今和次郎**に野外博物館の設計を委ねました。←

高橋文太郎は、所有していた保谷の古民家を寄贈・移築しました。それが、民族学博物館・野外展示物第一号になった、この模型「**武蔵野の民家**」でした。←

■ 展示資料紹介

・ 渋沢史料館:提供写真資料

渋沢敬三肖像、屋根裏博物館に集うアチックの仲間たち
鯛を釣る！留吉と。本牧にて

・ 西東京市中央図書館所蔵写真

民族学博物館・本館の中央廊下、武蔵野の民家

・ 拵嘉一郎所蔵・神奈川大学日本常民文化研究所保管写真

民族学博物館・本館、敷地内から見た民族学研究所、

民族学博物館・陳列室の展示状況

